

目次 第三卷 道教の伝播

口絵 台湾道教の法器——劉枝萬

日本の道教

中村璋八 三

一、道教の日本への伝来——五
大陸文化の流入

二、奈良朝以前の神仙説と咒術——七
常世の国 咒禁師の渡来 役の小角

三、奈良朝の道教——二五
道教の秘術 祭祀と道教 弘法大師と道教

四、平安朝の道教の盛行——三三
道教経典の将来 庚申思想 泰山府君 『医心方』

五、鎌倉・室町期の道教——三三
仏教文化の導入

六、江戸時代の善書の流行——三

道徳意識の向上 道教の受容 文学・国学への浸透

七、道教の諸研究——四

まとめ [付]アジアの道教研究

韓国

都 珧淳 兪

一、古代の神仙思想——五

はじめに 韓国の原始思想と神仙思想 韓国に來た中国の神仙方士 黄帝の東來説
太白山はすなわち三神山 「檀君神話」と神仙思想 神話と神仙思想 風流道と神仙道
風流道の修練方式 風流道と風流(モツ) 古代の仙人

二、道教の受容と変容——七

韓国における道家思想と道教 道家思想の伝來 新羅の道家思想 高麗の道家思想
朝鮮の道家思想 高句麗の道教 百濟の道教 新羅の道教 高麗時代の道教 朝鮮
時代の道教 道教の主體的変容 固有信仰と道教の習合 仏教・儒教と道教の習合
韓国道教の特徴

三、韓国の丹学派と道教医学——六

新羅時代の丹学の導入 高麗時代の丹学派 朝鮮時代の丹学派 韓国の道教医学

四、図讖思想と風水思想——一〇

新羅時代以前の図讖思想と風水地理思想 高麗時代の図讖思想と風水地理思想 朝鮮時代の
の図讖思想と風水地理思想 図讖の製作者

五、道教的民間信仰——二六

ハヌム信仰と山神信仰 パルマ 八関会と燃燈会 ヨソジ 城隍神と竈神 七星信仰と閔帝信仰 守
庚申 新興宗教としての東学と大倣教 おわりに

台湾の道教

劉 枝萬 二元

一、台湾の道教——二三

前言

二、教 派——二三

道教の教派 法教の教派

三、道 士——二四

火居道士のこと 道法二門について 紅頭道士と烏頭道士 道士の生活と境遇

四、台湾道教の今後——二七

結語

敦煌と道教

金岡照光 一三三

一、二十世紀の発見——一三五
まえがき

二、敦煌文献中の主なる道経写本——一五六
スタイン本・ペリオ本

三、敦煌本主要道経の諸様相——一八〇
無注五千字本『老子道德経』の写本 敦煌本『老子想爾注』の写本 太玄真一本際経の写本について 『老子化胡経』の写本について

四、敦煌における冥界、長生、養生等の信仰について——二〇五
敦煌文献と民間信仰 願文・讚文に見られる仙仏習合 各種文献に見られる長生・練丹

最近日本の道教研究

野口鐵郎・松本浩一 二二九

一、道教研究のたかまり——二三三

関心をよぶタオ||道

二、道教そのものに関する研究——二三三
道教とは何か 道教の歴史 経典と道士

儀礼と仙道

三、道教の周辺に関する研究——二三三
道教と他の諸思想 道教と儒教・仏教 道教と諸信仰 道教と秘密宗教 道教と諸科学

四、道教の伝播に関する研究——二四三
日本への伝播 韓国と敦煌

欧米における道教研究

福井文雅 二五九

一、研究前史——二五九

はじめに 十六〜十八世紀 「道士」の音写字 フランス学派の抬頭 シナ学の講座
創設 タオイズムとタオシスム ジョームス・レッグ 『道教研究文献目録』 十九
世紀後半 スタニスラス・ジュリアン 道教研究の始まり

二、研究小史——二六四
(1) フランス——二六四
エドゥアール・シャヴァンヌ レオン・ヴィエジュール師 アンリ・ドレ師 ボール・

ペリオ マルセル・グラネ アンリ・マスベロ ボール・ドミエヴィル バラシユ、
フィリオザ カルタンマルク、スタン 若手研究者たち

(2) ドイツ—三〇

ドイツ・シナ学の黎明 フランスとの関係 オットー・フランケ 第二次大戦前後

マックス・ウェーバー

(3) オランダ—三六

オランダ・シナ学の人々 ヤン・ドイフェンダク 『老子』訳註

(4) ソ連邦—三九

ソ連・シナ学の人々 トルストイと『老子』 一九三〇年代

(5) イギリス、アメリカ、オーストラリア—三九

着実にあがる研究成果

(6) イタリア、北欧—三九

今後に期待

あとがき

索引—三五

資料

野口鐵郎・石田憲司編 三五

道教年表—三七

道教研究文献目録—三七

総合索引—1~84

監修者略歴

執筆者略歴